

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	新潟市立上所小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	合 計	教員数
学級数	4	5	4	4	4	3	3	27	35
児童数	128	136	127	133	123	118	15	780	

実践研究の概要

1 主題（テーマ）

確かな学力を身に付け、学ぶよろこびを味わうことができる子どもの育成
～少人数指導（国語、算数）による個に応じたきめ細かな指導の充実～

2 内容と方法

(1) 実施学年・教科

1～6年：算数（系統性の強い教科で、個人差が出やすい。）
3～6年：国語（「書く」、「話す・聞く」などは、領域の特性から、一人一人の実態に応じたきめ細かな指導が必要である。）

(2) 年次計画

平成14年度

テーマ 確かな学力を身に付け、学ぶよろこびを味わうことができる子どもの育成
～少人数指導（国語、算数）による個に応じた支援をとおして～（1年次）

研究の見通し
確かな学力を身に付けるための少人数指導の組織と指導法の在り方を探る。

研究内容・方法（ ） 研究方法

(1) 学力の向上につながる少人数指導の在り方について

- 個に応じた指導を充実するための指導形態、指導方法の工夫
(3～6学年の算数（全単元）と3～4学年の国語（週4時間程度）における少人数指導の実践と授業研究)

(2) 評価方法の工夫

- 客観的なデータをもとにした学力実態の把握（NRTの実施と結果分析）
- 到達目標、評価規準の明確化に基づく達成度評価と指導及びその共有化
(数値化した評価と、評価表・個人カルテの作成)
- 子ども、保護者、教師による総合的な授業評価
(保護者への説明、アンケートの実施と集約結果の公開)

(3) 小・中連携教育の推進

- 小・中学校の接続を考えた少人数指導の進め方（TTを取り入れた授業交流）
- 学力実態の比較・検討と問題点の把握
(小・中合同研修会、学力向上シンポジウムの開催)

テーマ 確かな学力を身に付け、学ぶよろこびを味わうことができる子どもの育成
(2年次)

～少人数指導(国語、算数)による個に応じたきめ細かな指導の充実～

研究の見通し

確かな学力を身に付けるための指導過程の検討と評価の充実

研究内容・方法 () 研究方法

(1) 学力の向上につながる少人数指導の在り方について

- ・指導内容や子どもの学習の習得状況に応じた指導形態の吟味と、指導方法の検討

(3～6学年の算数(全単元)における少人数指導の実践と授業研究)

(算数科重点単元におけるモデルパターンの作成、年間指導計画の改善)

- ・発展的な学習、補充的な学習の充実(授業研究、教材作成)

- ・国語の少人数指導の推進

(3～6学年の国語(重点単元)における少人数指導の実践と授業研究)

- ・学習意欲を喚起し、学力を高める指導法や教材教具の開発(授業研究)

(2) 評価方法の工夫

- ・学力実態の分析と授業改善への活用

(学力テストの結果分析、自作テストの作成)

- ・評価規準に基づく評価と支援の充実

(評価規準の検討)

- ・複数の教師での評価を共有するための手だての工夫

(個人カルテ、評価規準表及び評価シートの改善と活用)

(3) 小・中連携教育の推進

- ・小学校(5,6年)と中学校の学力実態の比較・検討と問題点の把握

- ・9年間を見通した、基礎・基本にかかわる学習系統図と学習履歴が分かる個人カルテの工夫

(小・中合同研修会の実施、学びの系譜となる個人カルテの作成の試み)

テーマ 確かな学力を身に付け、学ぶよろこびを味わうことができる子どもの育成
(3年次)

～少人数指導(国語、算数)による個に応じたきめ細かな指導の充実～

研究の見通し

確かな学力を身に付け、学ぶよろこびを味わうことができる多様な指導過程の工夫と指導計画の改善

研究内容・方法 () 研究方法

(1) 学力の向上につながる少人数指導の在り方について

- ・子どもの実態と単元の特性における「算数科モデルパターン」の弾力的運用の工夫

- ・子どものニーズに合わせたコース内での複線型指導の構想

- ・授業実践に基づく指導計画の改善

(算数、国語における少人数指導の実践と授業研究)

(2) 評価方法の工夫

- ・学力実態の分析と授業改善への活用

(学力テストの結果分析、自作テストの作成)

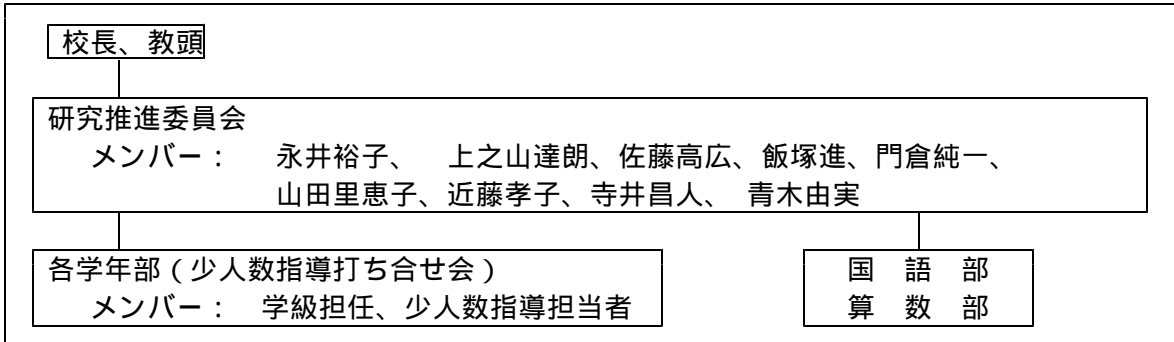
- ・子どもに自分のよさや伸びの自覚を促し、「学ぶよろこび」につながる評価方法への改善

(自己評価カードの作成と活用)

- ・複数の教師での評価を共有するための手だての工夫

- (個人カルテ、評価規準表及び評価シートの改善と活用)
- ・教師自身が自らの指導力について評価するための手だての工夫
(評価、分析の観点の設定と実施)
- (3) 小・中連携教育の推進
 - ・小学校(5, 6年)と中学校の学力実態の比較・検討と問題点の把握
 - ・9年間を見通した、基礎・基本にかかわる学習系統図と学習履歴が分かる個人カルテの工夫
(小・中合同研修会の実施、学びの系譜となる個人カルテの作成の試み)

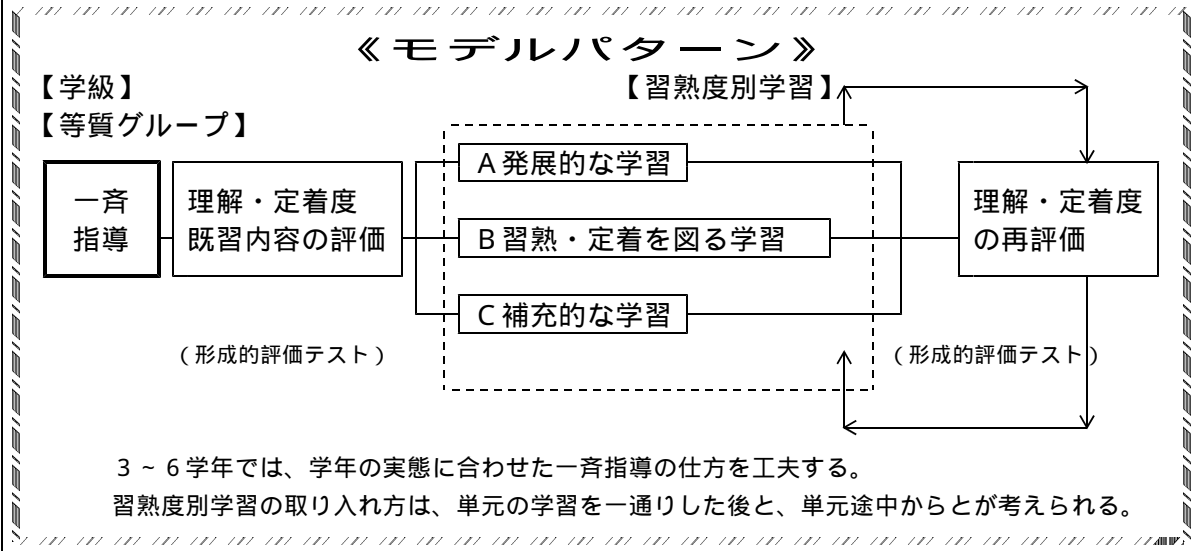
(3) 研究体制



平成15年度の成果及び課題

1 研究の成果

- (1) 少人数指導を推進することで、指導に当たる教師が、互いの指導観を出し合い、共同で教材研究や指導計画の作成に取り組んでいる。このシステムを効果的に機能させることで、互いの指導力の向上が図られている。
- (2) 算数科では、昨年度1単元すべてをコース別学習にした問題点を改善していくために、単元の指導過程に等質集団による一斉学習と習熟度別学習を位置付けた指導過程(モデルパターン)を考え、どの学年でも重点単元として設定し、実施した。その結果、身に付けさせたい指導内容が明確になり、一人一人の習得状況に応じたきめ細かな指導をより充実させることができた。



(3) 複数の教師による評価の共有化をめざし、評価規準を設定し、一人一人の子どもの学習状況やつまずきをとらえ、支援の充実や指導方法の改善をしてきた。より実用的な評価規準表、評価シート、個人カルテを作成することができた。

(4) 少人数指導が、子どもの「確かな学力」を身に付けることにつながっている。
アンケートの結果から、算数の少人数学習で勉強がよく分ると答えている子どもの数が多い。

【子どもへのアンケート結果から】

Q：算数の少人数学習では、勉強がよく分かりますか。

	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	どちらともいえない
14年度	29%	59%	9%	2%	1%
15年度	29%	61%	9%	1%	

Q：算数での少人数学習は、楽しいと思いますか。

	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
14年度	23%	56%	17%	4%
15年度	27%	50%	20%	3%

単元ごとに「形成的評価テスト」を作成し、子どもの学力の伸びを数値化してとらえた。このテストの結果をもとに、一人一人の子どもの習熟度やつまずきをとらえ、学習のねらいを焦点化して習熟度別指導をしたことで、中位・下位の子どもの学力が向上した。

【5学年：算数 形成的評価テストの結果から】

単元名	習熟度別学習前 平均点	単元終了後 平均点	習熟度別学習前 標準偏差	単元終了後 標準偏差
小数	84	88	17	14
小数整数の乗除法	77	86	19	17
三角形・四角形	84	93	24	16
小数のかけ算	85	91	16	12
小数のわり算	76	83	21	19

どの学年でも、市販の単元末テストの結果と全国平均（各種の調査と過去のデータに基づき予想される数値を示したもの）との比較をすることで、基礎・基本の定着状況の確かさがうかがえる。

【6学年：算数 「単位量あたりの大きさ」単元末テストの結果から】

	全国平均	上所小
数学的な考え方	80	89.6
知識・理解	80	82.6
全体	80	86.1

（表中の上所小の数値は、素点の平均値）

(5) 少人数指導の進め方が子どもたちに定着してきた。また、子どもや保護者の希望をとりながら指導を慎重に進めたり、たより等で教師の考えや子どもの様子を保護者に知らせること、授業参観や懇談会を実施し保護者からの意見を聞く機会をもつことにより、保護者の理解が深まった。

【保護者へのアンケート結果から】

Q：子どもの学力を高めるために、少人数指導を取り入れることについてどうお考えですか。

	とてもよい	よい	あまりよくない	よくない
14年度	45%	49%	5%	1%
15年度	38%	56%	5%	1%

Q：コース分けの仕方や所属の決め方について、学年だよりや懇談会などの説明
 でよく分かりますか。

	よく分かる	だいたい分かる	あまり分からない	分からない
14年度	9%	67%	23%	1%
15年度	18%	70%	11%	1%

- (6) 3, 4年生の国語科では、「書く」領域に焦点を当てて少人数指導に取り組んだ。
 その結果、書くことが苦手な子どもや書く力の不十分な子どもに寄り添った指導を
 することができ、書くことへの自信につながった。

2 今後の課題

- (1) 今年度の取組を継続し、形成的評価テスト等の数値化したデータをもとに、今後の
 の指導上の課題を明確にしていく。
- (2) これまでの指導過程を活用し、「算数科モデルパターン」の弾力的な運用や個に応
 じた複線型の指導構想を指導計画に位置付ける。
- (3) 教師の指導力の向上を教師自身を感じ取ることができるよう、授業を評価し分析す
 るための観点を設定し、数値化してとらえる工夫をする。
- (4) 子どもと教師のかかわりの充実を図る授業への改善を目指し、授業の中で教師がと
 らえた子どもの努力、伸び、学習の足跡を子どもに伝え、自覚させることで、子ども
 に学ぶことへの自信をもたせるようにする。子どもの「学ぶよろこび」につながる評
 価の一つとして、自己評価のさせ方などの工夫もしていく。
- (5) 国語科では、「書く」領域だけでなく、今年度の実践をもとに「読む」や「話す・
 聞く」などの領域でのコース別学習（習熟度別も含む）の可能性を探る。

学力把握のための学校の取組について

全国標準学力検査（NRT）の実施（2～6年）と全職員による結果の分析、重点指導 事項の検討	（年1回・・・4月）
新潟県学力改善調査の実施（4～6年）と結果の分析	（年1回・・・2月）

フロンティアスクールとしての成果の普及について

【平成14年度】

授業研究 3学年「わり算」

日 時・・・平成14年10月10日（木）

対 象・・・鳥屋野中学校、女池小学校職員にも授業公開

サポート委員会

- (1) 日 時・・・平成14年10月18日（金）
 対 象・・・上所小学校小学校 サポート委員（約20名）
 内 容・・・学力向上フロンティア事業について（説明）
 少人数指導への取組について（意見交換）
- (2) 日 時・・・平成15年 3月17日（月）
 対 象・・・上所小学校小学校 サポート委員（約20名）
 内 容・・・新潟県学力改善調査結果と分析について（報告）
 少人数指導の成果と課題について（意見交換）

学力向上シンポジウム

日 時・・・平成14年12月 7日(土)
場 所・・・新潟市民芸術文化会館 りゅーとぴあ 劇場
対 象・・・保護者、サポート委員(含:学校評議員)、教育関係者
(参加者 約400人)
内 容・・・基調講演 「学力低下の真相と学力向上への方途」
読売新聞社 論説委員 勝方 信一

シンポジウム

コーディネーター	新津市立結小学校	大森 修
少人数指導について	上所小学校	永井 裕子
授業改善について	鳥屋野中学校	野澤 一吉
家庭学習について	上智大学教授	佐藤 岩昭

(保護者代表)

近隣の学校への情報発信と指導の交流

日 時・・・平成14年12月25日(火)横越小学校、上山小学校
内 容・・・学力向上に向けての取組
少人数指導を実施しての問題点、成果と課題

その他、県内・県外の教育関係者への授業公開、資料提供

【平成15年度】

授業研究 3学年 国語「知らせたいことを分かりやすく書こう」
5学年 算数「小数のかけ算・わり算」

日 時・・・平成15年6月19日(木)
対 象・・・本校職員

(鳥屋野中学校、女池小学校、横越小学校職員にも授業公開)

近隣の学校への情報発信と指導の交流

日 時・・・平成15年 夏季休業中(横越小学校、東青山小学校)
内 容・・・学力向上に向けての取組
少人数指導を実施しての問題点、成果と課題

2年次中間発表会

日 時・・・平成15年10月10日(金)開催
場 所・・・新潟市立上所小学校
対 象・・・教職員約180名の参加
テーマ・・・確かな学力を身に付け、

学ぶよろこびを味わうことができる子どもの育成

【成果】

- 1 参会者の学校の少人数指導の取組を交流することで、それぞれの学校の課題が明確になった。
- 2 意見交換を通し、少人数指導を日常的に推進するための改善点や配慮事項が具体化した。
- 3 学校の実情(学校規模や教職員の配置など)に応じた少人数指導の在り方が明確になった。
- 4 参会者からのアンケートの意見を貴重な外部評価とし、3年次に向けた研究の見通しをもつことに役立てることができた。

サポート委員会

- (1) 日 時・・・平成15年7月31日(木)
対 象・・・上所小学校小学校 サポート委員 (約20名)
内 容・・・学力向上フロンティア事業について(説明)
少人数指導への取組について(意見交換)
- (2) 日 時・・・平成16年3月24日(水)実施予定
対 象・・・上所小学校小学校 サポート委員 (約20名)
内 容・・・少人数指導の成果と課題について(意見交換)

【平成16年度】

3年次研究発表会

- 日 時・・・平成16年11月12日(金) 開催予定
場 所・・・新潟市立上所小学校
対 象・・・教職員、サポート委員、保護者
テーマ・・・確かな学力を身に付け、
学ぶよろこびを味わうことができる子どもの育成

2年次以降の取組については、今後ホームページ更新の際、掲載予定。

(<http://www.niigata-inet.or.jp/niigata-kamito>

koro-e/)

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無